

令和4年度 北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

この調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、調査は実施教科が小学校・中学校ともに限られた教科のみで、学習指導要領の内容全てを網羅するものではありません。ですから、結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。この結果のみで、学校や児童生徒を評価できるものではありません。

また、北斗市教育委員会では、例年同様、市全体及び中規模・大規模の小中学校の調査結果のみ公表いたします。今後も、北斗市の学校は、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の整備に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

北斗市教育委員会

調査の概要

○ 調査実施日

令和4年4月19日（火）

○ 調査の対象

・ 小学校第6学年の児童
・ 中学校第3学年の生徒

2 教科に関する調査

・ 小学校：国語・算数・理科
・ 中学校：国語・数学・理科

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活のさまざまな場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

①児童生徒に対する調査

・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

②学校に対する調査
・ 学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

小 学 校

1 教科に関する調査

○国語・算数で全国の平均正答率を下回りましたが、昨年より差が縮まっています。

○国語では、「言葉の特徴や使い方」で全国平均を上回りましたが、「我が国の言語文化」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で、全国平均を下回りました。

○算数では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の全てで、全国平均を下回りました。

北斗市内小学校各教科の平均正答率 (%)

6年生 355人

	国 語	算 数	理 科	合 計
北 斗 市	64	62	64	190
北 海 道	64	61	63	188
全 国	65.6	63.2	63.3	192.1
道との差	0	+1	+1	+2
全国との差	-1.6	-1.2	+0.7	-2.1

※北斗市・北海道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値です。

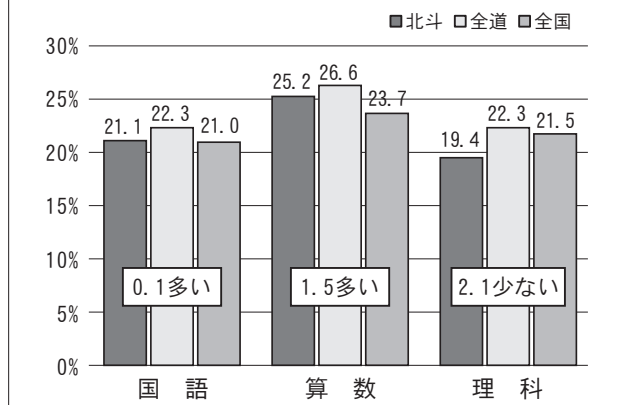
○理科では、「エネルギー」領域が全国平均と同じで、「粒子」「生命」「地球」の領域で、全国平均を上回りました。

○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として、各教科の平均

正答率が全国以上になることを目指しています。「正答数の少ない層」の割合は、少ないほど望ましいこととなります。

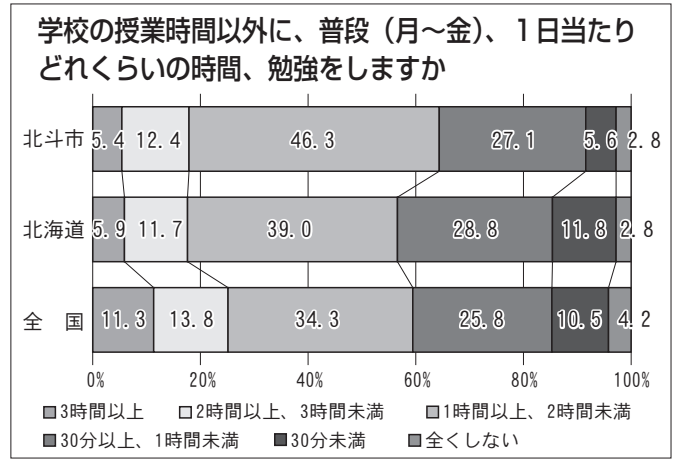
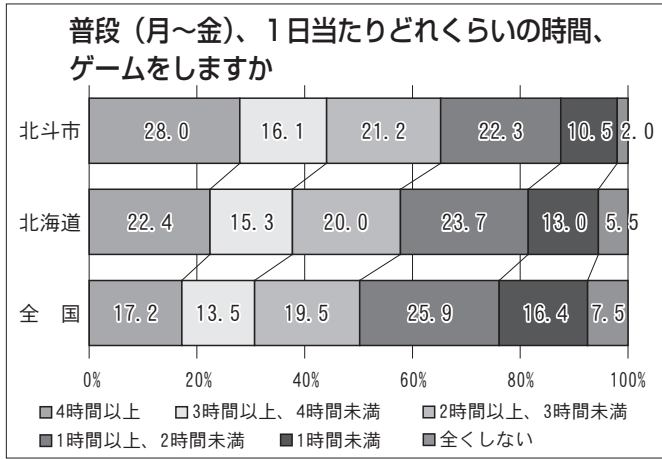
今年度、小学校では、国語で0・1割、算数で1・5割、全国より多くなり、理科で2・1割、全国より少なくなりました。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合



2 児童への質問紙調査

○平日、1時間以上ゲームをしている児童の割合は、全国を11・5割上回りました。しかし、学校の授業以外に1日当たり1時間以上勉強している児童の割合は全国を4・7割上回りました。ゲーム時間は昨年と同様に長い傾向にあります。家庭学習の時間は大幅に改善が見られ（昨年は全国平均を7・2割下回る）、日常生活時間の使い



方々に改善がみられます。

○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を下回っていますが、昨年（27.8%）より、向上しています。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に、「持っている」と回答した割合は全国・全道を上回りました。（昨年は両方とも下回りました。）

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に、北斗市の小学生は、毎年、全国・北海道を上回る割合で、「いけないことだ」と答えています。

主な質問における回答

以下の質問に「当てはまる」と回答した割合(%)	北海道	北海道	全国
自分にはよいところがあると思いますか	31.9	35.8	39.4
将来の夢や目標を持っていますか	61.0	59.2	60.4
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	88.7	86.9	83.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	38.1	48.0	51.7

- ① わかりやすい授業のために
- ◆ ICT機器を効果的に活用した授業づくりの取組
- ◆ 日常生活と学習を結び付けながら解決していくような学習の取組
- ◆ 音読の時間の設定

【課題解決・改善の取組】

小学校4校（A～D）の平均正答率（%）

	国語	算数	理科	合計
A	61	58	61	180
B	66	68	66	200
C	63	56	56	175
D	66	65	68	199

※各校の正答率は国が公表した整数値です。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を下回っています。しかし、昨年（32.0%）より、かなり改善がみられます。

3 学力向上の取組

○「1 教科に関する調査」「2 児童への質問紙調査」の結果からわかるように、今回の調査では多くの課題が明らかになりました。市内各小学校では、結果を分析し、実態に合わせた改善に取り組んでいます。

- 1 教科に関する調査**
- 昨年は国語・数学の2教科実施で、両方全国平均を上回りましたが、今年
- 中学校**
- ◆ 教科担任制や少人数指導などにより、授業の質の向上の取組
 - ◆ めあての提示や学習過程（授業の流れ）の統一により、学習の見通しをもてるような授業の取組
 - ◆ 考えを表現したり、対話的な場面を組み込んだりする授業の展開
 - ② 児童の学習意欲向上のために
 - ◆ 全校での短作文の取組と継続的に校内掲示の実施
 - ◆ 朝読書、図書室の環境整備、読み聞かせなどによる読書環境の整備・充実
 - ◆ 体験的な活動の設定
 - ◆ 基礎的な学力を底上げするための朝学習やサポート学習の実施
 - ◆ デジタル教科書、AIDドリル、ネットドリルの活用
 - ③ その他の取組
 - ◆ 日記や条件付き作文の取組
 - ◆ 全国学力・学習状況調査問題の解き直しやほっかいどうチャレンジテストの取組
 - ◆ オンライン「Zoom」による学びの保障
 - ◆ 「確認シート」等による家庭学習の充実
 - ◆ 全教員で調査問題を解き、気付いた点や授業に盛り込むべき観点を話し合い、授業計画に生かす取組

は国語のみに留まりました。

○国語では、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で、全国平均を上回りましたが、「我が国の言語文化」「読むこと」で、全国平均を下回りました。

○数学では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全てで、全国平均を下回りました。

○理科では、「エネルギー」領域で、全国平均を上回りましたが、「粒子」「生命」「地球」の領域で、全国平均を下回りました。

北斗市内中学校各教科の平均正答率 (%)

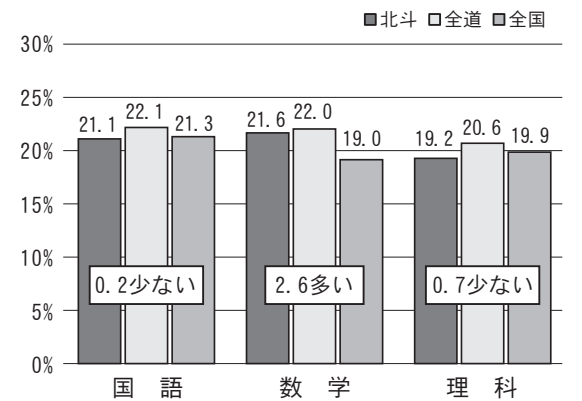
3年生 376人

	国語	数学	理科	合計
北斗市	71	48	47	166
北海道	69	49	49	167
全国	69.0	51.4	49.3	169.7
道との差	+2	-1	-2	-1
全国との差	+2.0	-3.4	-2.3	-3.7

※北斗市・北海道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値です。

○全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合は、中学校で

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

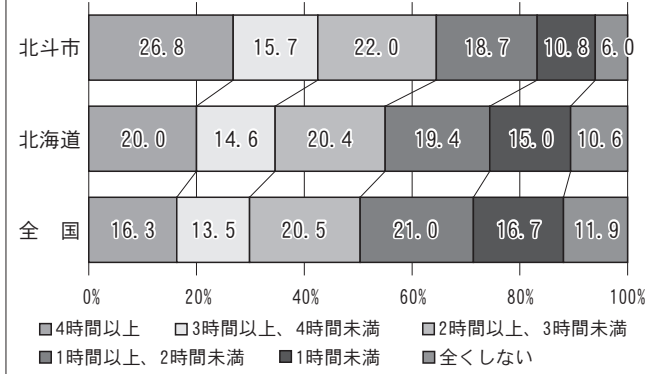


は、数学で2・6ポイント多くなったものの、国語で0・2ポイント、理科で0・7ポイント、少なくなりました。

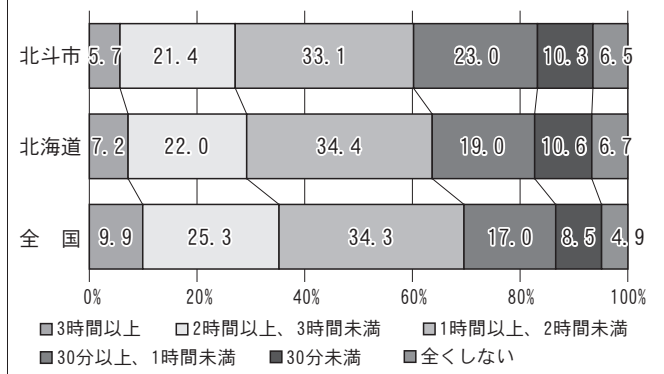
2 生徒への質問紙調査

○平日、1時間以上ゲームをしている生徒の割合は83・2%で全国（71・3%）を11・9ポイント上回りました。全国が昨年（80・0%）より大きく減少しましたが、北斗市は昨年の89・1%よりは減ったものの減少幅が小さく、差が広がりました。また、学校の授業以外に1日当たり1時間以上勉強している生徒の割合は、60・2%で全国（69・5%）を9・3ポイント下回りました。学習時間に関しては全国も昨年（75・9%）より減少しましたが、北斗市は昨年（69・0%）より減少幅が大きく、差が広がりました。引き続き、日常の

普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか



学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



主な質問における回答

以下の質問に「当てはまる」と回答した割合(%)	北斗市	北海道	全国
自分にはよいところがあると思いますか	43.4	36.2	36.0
*先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	55.6	40.8	39.9
将来の夢や目標を持っていますか	39.0	39.9	39.8
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.4	84.0	82.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	41.5	41.7	45.8

○生活時間の使い方の改善が望まれます。

○「自分には、よいところがあると思えますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を大きく上回っています。昨年度も同様に大きく上回っていました。今年度のみの左表*の質問で、「当てはまる」生徒の割合が、大幅に上回っていることも一因と考えられます。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に、「持っている」と回答した割合は、ほぼ全国・全道と同様です。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という

質問に、北斗市の中学生は、毎年、全国・北海道を上回る割合で、「いいないことだ」と答えています。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「当てはまる」と回答した割合は、全国・北海道を下回っています。しかし、昨年（39・6%）より、改善がみられます。

3 学力向上の取組

中学校3校（A～C）の平均正答率（%）

	国語	数学	理科	合計
A	68	47	44	159
B	71	46	49	166
C	75	55	50	180

※各校の正答率は国が公表した整数値です。

○小学校同様、中学校でも明らかにった課題を解決するため、結果を分析し、改善に取り組んでいます。

【課題解決・改善の取組】

①わかりやすい授業のために

◆生徒による授業評価（アンケート）の実施

◆ICT機器やデジタル教科書を効果的に活用した授業づくり

◆習熟度別授業の実施

◆実験や観察などを積極的に行う取組

◆授業の始まりで目標を提示し、終わりでまとめや振り返りを実施

◆授業改善チェックシートの活用

◆独自の意識調査アンケートを実施し、生徒の学習や生活に対する意識調査により、授業改善に反映

◆全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「授業アイデア例」の活用

②生徒の学習意欲向上のために

◆学習内容と日常生活を関連付けた指導の推進

◆家庭学習の計画をサポートする手立ての実施

◆全員が達成感をもてるような問題の実施

◆授業につながる課題を出し、家庭学習習慣の定着の取組

◆考えた過程を「説明する」「解釈する」ことに着目できる授業づくりの推進

◆基礎的な学力を底上げするためのサポート学習の実施

◆解答を説明する活動や、考え方を記述する活動の実施

③その他の取組

◆各種検査・チャレンジテストの実施と結果交流

◆調査問題の振り返り、解き直しの実施

◆条件作文の取組

◆授業の最初に小テストを実施

◆生活リズムチェックシートの活用

◆部活動における学習会の実施（会議のための部活動待機の時間など）

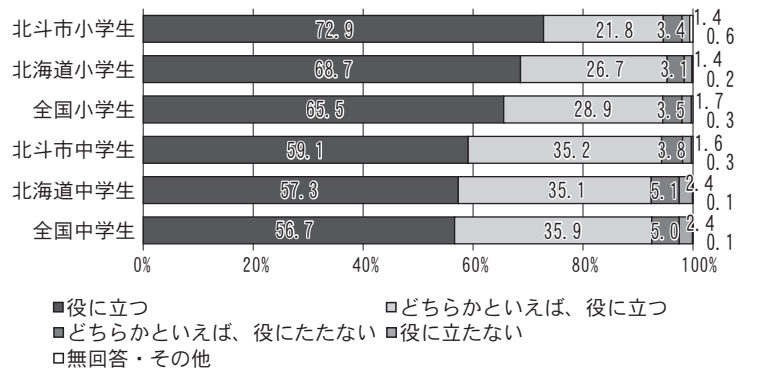
1人1台端末について

○今年度は、1人に1台整備されたICT端末末に関する質問が重点的に設定されました。

○北斗市の小中学生は、全国・北海道よりも、ICT機器が学習に役立つと考えています。

○各学校では、効果的な活用に向けて、研究・研修に取り組んでいます。

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



子どもたちの健やかな成長のために

○昨年の調査で、北斗市の子どもたちは、「ゲーム等の時間が長く、家庭学習の

時間が短い」といった課題が浮き彫りになりました。今年度は、小学生の家庭学習に改善傾向が見られましたが、他はまだ課題が解決されたとは言えません。引き続き、一日の過ごし方、時間の使い方の見直しが必要です。

○しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」という質問に対しては、毎年、「当てはまる」と答える児童生徒の割合が、全国・全道を上回っています。また、小学生の質問紙では、「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」などで、全国・北海道を上回り、中学生の質問紙では、「自分にはよいところがある」「友達と協力するのは楽しい」などで、全国・全道を上回っています。他にも、昨年に比べ、肯定的な回答が確実に増えていますが、さらに、ICT機器の活用についても、意欲的と言えます。

○このように、北斗市の子どもたちには、よいところがたくさんあります。そして、何より新型コロナウイルス感染症の勢いも収まらず、いろいろな制約のある中、子どもたちは前向きにがんばっています。

○各ご家庭、市民の皆さまにおかれましては、そんな子どもたちをやさしく見守り、温かい励ましをしていただきませうようお願いいたします。

（教育委員会 指導室）